



海の子

浜松市立舞阪小学校
学校だより
令和8年2月2日

新しい学年に向けて

校長 古川 里江

あっという間に1月も終わりとなり、間もなく立春を迎えます。昔からの言葉遊びの一つに「一月はいく、二月は逃げる、三月はさる」という言葉があります。1、2、3の3か月はあっという間に過ぎてしまうということをとれた言葉です。学校生活においても、3学期は実際の登校日数よりも、特に短く感じます。本年度の登校日数も、今日を含めて1～5年生は29日間、6年生は30日間となりました。子供たちには、4月からの新しい生活に向けて本年度のまとめをするとともに、1日1日を大切に過ごせるよう支援していきます。今月もよろしくお願いたします。

<2月2日朝会 校長の話>

早いもので、もう1月が終わりました。昨日から2月、明日は節分ですね。おうちで「豆まき」をする人もいるのでしょうか。豆まきは「節分」の日に行います。「節分」は「季節の分かれ目、変わり目」という意味です。なので、その次の日は春になったという意味で「立春」といいます。だから節分は1年に4回あって、それぞれの節分の次の日は「立夏」「立秋」「立冬」といいます。なぜ春の節分だけ豆まきをするかという、昔は、冬と春の変わり目、立春の頃は病気や災害が起こりやすいといわれていました。そこで、病気や災害などの悪いことを「鬼」にたとえて、鬼を外に追い出して、幸せを呼び込むために豆まきが始まったといわれています。だから、豆まきをするときみなさんは声を出しながらやりますよね。「鬼は外」「福は内」元気な声で豆をまけば、鬼もみなさんには近寄れなくなると思います。



ところで、校長先生も先生たちも、そしてみなさんも心の中に小さな鬼がいるときがあるって知っていますか？

「宿題やりたくないなあ」「掃除さぼりたいなあ」なんて思うことはありませんか？私も「お仕事休みたいなあ」と思う時があります。他にも弟とけんかしたときとか「自分は悪くない。絶対に謝らないぞ」なんて思う時もあります。そんなときは、心の中で小さな鬼が暴れているんだと思います。みなさんも心当たりありませんか？

でも心の中には福の神も住んでいて、「なまけちゃだめだよ」「謝りなさい」って幸せになるように導いてくれています。このこともみなさん経験があるんじゃないでしょうか。

小さな闘いがしょっちゅうみなさんの心の中で起こっています。今、朝会で校長先生が話をしている間だって、「早く終わらないかなあ」と鬼がつぶやき、「しっかり聞きなさい」って福の神がささやいているでしょう。

みなさんには、一年を通してずっと心の中の福の神といっしょになって、心の中の小さな鬼と闘ってほしいと思います。私も闘い続けます。

運動場の桜の木を見ると、つぼみがついて膨らみ始めようとしています。春にきれいな花を咲かせるために、厳しい冬を耐え、今から準備を始めているのです。みなさんにとって春は大切な季節になります。毎日寒い日が続きますが、4月の新しい学年のスタートに向けて自分を鍛えて春を迎えましょう。